

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2393800020
法人名	社会福祉法人紫水会
事業所名	グループホームオーネスト桃花林
訪問調査日	平成 21 年 3 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2393800020		
法人名	社会福祉法人紫水会		
事業所名	グループホームオーネスト桃花林		
所在地	小牧市上末字道場580-1 (電話) 0568-78-3300		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成21年3月20日	評価確定日	平成21年5月28日

## 【情報提供票より】 (平成21年3月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19	年	4	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	11	人	常勤	6	人,	非常勤	5
			常勤換算	9.6	人		

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,888	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有( )	円	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )		有りの場合償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり	1,500	円			

### (4) 利用者の概要 (平成21年3月10日現在)

利用者人数	9	名	男性	2	名	女性	7	名
要介護1	1	名	要介護2	2	名			
要介護3	4	名	要介護4	1	名			
要介護5	1	名	要支援2	0	名			
年齢	平均	85	歳	最低	70	歳	最高	94

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小牧市民病院、本山歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一面の桃畑に囲まれた静かでのどかな自然環境に恵まれた場所に位置するホームである。入居者本位のケアの実践や家庭的な趣を感じさせるために、季節を感じる草花を飾ったり行事を積極的に行っている。ホーム独自の理念は職員間で定めており、定例会議で確認し合い日々実践している。地域の学生の職業体験や踊りなどのボランティアの受け入れも実施している。2ヶ月毎の運営推進会議では地域を代表する参加者の積極的な協力で、町内会への加入もできている。入居者の希望を取り入れ、気分転換を目的とした外出支援も積極的に行っており市内や近隣市の公園などへ出かけている。医師の往診や法人内の居宅介護支援事業所との連携も密であり、バックアップ体制も整っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、地域行事への参加やボランティアの受け入れなど地域の人々との積極的な交流に努めている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4、5、6)
	ホーム独自のものではないが同施設内に地域交流ホールがあり、入所者、家族、地域の方が参加できる講演や催しなどに参加して交流できるよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員、区長、入居者、入居者家族及び施設長、管理者の参加で開催されている。夜間災害時の避難対応や地域の方との協力体制について対応方法を検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	契約時に口頭説明をするだけでなく、契約書類を使用して家族の意見や苦情などへの対応を行い運営に反映させている。また、面会時には積極的に家族への声かけを行いサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として自治会、老人会、行事などの地域活動に参加し、地域の方と交流を図っている。また、散歩などの外出時には挨拶に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の3つの理念を挙げ、明るく家庭的な環境の中で、「にこやかに」・「個性豊かに」生活がおくれるように、社会性を重視し地域との交流を図り地域の一員であることを意識して、日々の取り組み支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員室に掲示され、申し送り時には必ず確認を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お花見、七夕会、紅葉狩り、クリスマス会などはボランティアの方の協力を得ている。散歩の途中での挨拶や世間話をする機会が多い。地元の人たちの慰問も多くこれらの交流を歓迎し継続できるよう努めている。また、お正月のどんど焼きや鏡開きなど地域の行事に参加をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全員で取り組み、サービスの質向上のきっかけとして活用されている。評価結果も改善への取り組みとして役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、ホームの現状や課題についての話し合いや意見交換が行われている。参加希望があれば誰でも参加できる仕組みになっている。	○	災害対策について地域の方の協力を得られるように、運営推進会議で提案される事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れたり、行政の窓口には家族の方と同伴をする等で連携が取られている。市が取り組んでいる中学生の職業体験の受け入れをしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には最近の暮らしぶりを職員から話しかけるよう心がけている。面会の少ない家族に対しては、健康状態の変化についてその都度、電話連絡をしている。ホームだよりの作成については現在企画中である。	○	ホームだよりの作成について引き続き検討される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気軽に意見や要望などを出せる状態作りをしている。また、面会時に家族へ接する機会を出来るだけ増やし、意見や要望など言いやすい関係作りを日頃から心がけている。家族からの意見は入居者本位に立ち、出来るだけ対応できるように前向きに検討する方針である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えるようにしているが、異動の場合は入居者や家族に説明している。職員は異動後もよく顔を出すなど入居者への不安をなくす工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は勤務中での対応をしている。報告書を作成して研修内容はホーム全体で周知できるようにしている。また、職員から申し出る研修については、できるだけ勤務の配慮がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市社会福祉協議会が主催する研修に積極的に参加し、他事業者と交流の機会を作り意見交換をしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしてもらい、お茶を飲んだり入居者や職員と話をしたりしてホームの雰囲気に馴染めるよう工夫をしている。また、体験入所も取り入れていくことを検討している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活暦を把握し、一人ひとりの思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れずに尊敬の気持ちを持って接している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出が好きな人、お酒落が好きな人など入居者の思いや意向を大切に出来ただけ希望に叶うよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアの重要性を十分理解しており、家族や職員の意見を反映した本人本位の介護計画書を作成している。面接の機会が少ない家族には、生活の状況を電話等で報告し希望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は原則3ヶ月ごとに見直しをしているが、状態の変化が生じた場合は、その都度必要関係者と話し合いがされ、現状に即した見直しが実施されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外食など本人、家族の希望に応じた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があり、健康管理がされている。歯科も協力医がおり、随時受診支援を行なっている。家族が希望するかかりつけ医の受診は原則家族支援ではあるが、家族の都合や希望により事業所支援も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明をして入居者の意向の確認を行い、看取りの同意書を取っている。医師や看護師の協力で終末期ケアへの職員の意思の共有はできている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応などは、馴染みの関係を持ちながら入居者に尊敬の気持ちを持って接している。個人情報の書類は保管庫に収められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な決まりは作らず、一人ひとりを大切に出来るだけ本人の希望に添えるよう職員間で協力し合い支援を心がけている。希望に沿って1日楽しく過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や意見を取り入れた献立作りが行われている。入居者の身体状況に応じて支援がされている。食卓には季節の花などが置かれ、とても和やかな雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望の時間に入浴できる支援が行われ、夕食後の入浴希望者に対しても対応し実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の身体状況に応じて食事の片付けや絵を書いたり三味線を弾くなど入居者の能力を活かせる場を提供し、楽しみを活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人散歩や一人買い物などその日の気分にあわせた支援をしている。法人内にある喫茶店を利用したり外食などで気分転換を図る機会を多く取り入れている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の特性をよく理解しており、玄関の鍵は日中かけていない。見守り重視の介助を行っており、鍵をかけないことがあたり前の支援として行われている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間と夜間を想定して入居者と共に防災訓練を行っている。災害マニュアルの作成もされている。	○	運営推進会議の議題に挙げたり近隣との交流を図り、日頃から災害対策の協力が得られるように声かけをしていくことが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定、食事摂取、水分摂取量は克明に記録され体調の変化には細心の配慮がされている。キザミ食、粥食、とろみ食など一人ひとりの状態に合わせた対応がされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カセットテープから流れる音量、職員の声かけなどは適度であり、不快感は感じない。共用空間は明るく広く、季節の花や入居者自作の作品を飾り目を楽しませてくれている。椅子やソファは安定性に配慮された物であり好きな場所で気持ち良く過ごせる工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や写真など思いの深い大切な物は、家族と一緒に工夫され、本人が心地よく過ごせる居室作りの支援が行われている。		

※  は、重点項目。